

妻ヶ丘中学校だより

令和5年12月22日 校長 深江 祐史

二学期が終了しました

市内ではインフルエンザが流行し、学級閉鎖等の措置をした学校もある中、本校は何とか無事に令和5年度の第二学期を終えることができました。これは、生徒の皆さんが寒い中にも関わらず、こまめに手を洗ったり、しっかり教室の換気に気をつけたりしてくれたおかげだと思っています。あとは寒い中でも体育の授業や部活動に真剣に取り組んでくれたからでしょうか。持久走も頑張っていましたね…しっかり予防する、そして体力をつける。どちらも大切なことだと思います。

それでも残念ながら、終業の日を欠席せざるを得なかった人もいます。特に3年生の皆さんにとっては、勝負の冬休みです。自分でできる対策はしっかり行って過ごしてほしいと思います。

1 終業式が行われました

本日(22日)の終業式では、4名の生徒に「二学期の反省と今後の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 平島 快 さんは、今学期①生徒会役員選挙での応援演説②文化祭実行委員③学級委員長として努力したことを述べました。初めての経験で、うまくいったこといかなかったこともあったが、自分にとって良い経験になったこと、また周囲に助けてもらったという感謝の言葉がありました。

2年代表の 小川 翼 さんは、①修学旅行でルールとマナーの大切さを学んだこと②学級委員長としての動きはまだまだだったことを振り返っています。また、個人的にはスマホの見過ぎで生活のリズムが乱れたことを大きな反省点として挙げていました。本当に今の中学生にとって、スマホとのつきあい方は非常に大切なことになってきていますね。

3年代表の 松崎 和奏 さんは、勉強に追われる毎日だったが、その中でも最高の文化祭を経験することが出来たとの言葉がありました。自分のクラスだけでなく、どのクラスにとってもベストパフォーマンスの合唱であったことが、最終学年として誇らしく満足いくものであったということでした。そしていよいよ、来年、中学生として最後の学期は、完全受験モードで自分を信じて志望校合格へ頑張りたいとの強い決意の言葉がありました。さすが受験生、覚悟を決めた実に良い表情でした。

生徒会代表の 鶴田 蓮 さんは、生徒会として①地区ふれあい祭り②まちなかマルシェのボランティアに積極的に取り組んだことを挙げました。①については、地域の多くの方から称賛を受けたこと②については、チャンスがあれば次の機会には、市民の方ともしっかりコミュニケーションを図りたいとのことでした。また、これからの妻ヶ丘中の課題として学力向上をあげ、テスト期間中の取組について具体的な提案もなされました。そして、最後には、今の3年が中心となって作り上げた妻ヶ丘中生徒会の伝統を引き継いで、もっと学級、学年、学校全体に貢献したいとの決意の言葉がありました。さすが、選挙で選ばれた執行部だけありますね。期待しています。頑張ってください。

今回、4人の発表は、インフルエンザの感染拡大が懸念されたため急遽リモートとなりましたが、4名は、緊張しながらもカメラの前で、しっかり自分の言葉で述べていました。4名とも素晴らしい発表でした。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

さて、こちらをご覧ください。この人、だれだか知っていますか？イーロン・マスク 氏です。

マスク 氏は、企業経営者です。そして、大変なお金持ちで総資産額は27兆円とも言われています。マスク氏はいろんな会社を立ち上げています。その中には、スペースX社 という宇宙開発の会社があります。

スペースX社には「テラフォーミング」という計画があります。どんな計画かというと「惑星地球化計画」です。惑星を改造して、人間の住める環境に変えるという壮大な計画です。なお、惑星の中で一番のターゲットになっているのが「火星」です。イーロン・マスク氏は、2020年代に有人探査機を火星に送り込み、40年から 100 年をかけて火星を人間の住める環境に改造すると言っています。

これは、いずれ地球の資源が枯渇し、環境破壊が進み、この惑星が人間にとって住みにくい場所になるという暗い未来予測が背景にあります。しかし、地球以外の星に住めるか？については、ずいぶん昔から議論されており、実際に様々な取組も行われてきました。

中でも有名なのが、1991年に行われた「バイオマスフェア2」という実験です。今から約30年前に行われた実験です。この実験はアメリカ アリゾナ州の砂漠で行われた壮大な実験です。巨大なガラス製のドームの中に、水や空気、土壌と共に 3800 種類の動植物を持ち込み、外界とは完全に隔離された「生態系」を人工的に創出し、その生態系を人間の生存に適した状態に制御（コントロール）しようとする実験です。

これに8人の研究者が参加しました。

結果は、どうなったかということ・・・酸素濃度の低下、生物の死滅、虫の大量発生などの問題が発生し、残念ながら2年でこの計画を中止することとなりました。

この実験から自然の生態系というものが実に精妙なバランスの上に成り立っていること、改めて地球は奇跡の星だということを思いしることとなりました。人類が火星に移住し、そこで人類が生存できる豊かな自然の生態系を創ろうとする試みは、我々が創造するよりも遥かに難しい挑戦になりそうです。

さて、あまり知られていないことではありますが、実は「バイオマスフェア2」の実験には、もう一つ大きな失敗がありました。

実験に参加した 8 人の研究者は、外界から隔離されて生活した二年間の実験期間中に、互いの意見が衝突し、感情的な不和が生まれ、共同生活を営むことができなくなってしまったということです。親しい友人であった人たちが最低限会話を交わすだけの仲になってしまった・・・。

ちょっと残念なエピソードですね。でも、これも私たちに大切な学びを与えてくれました。これから科学の進歩により火星に人類が移住できる環境が整ったとしても、そこに一緒に過ごす人と適切なコミュニケーションを図りながら、豊かな人間関係を築くことができなければ、いずれ、うまくいかなくなる・・・。

「人と人がつながることをあきらめない」これは努力が必要かもしれませんが・・・しかし、私たちにとって、人類にとって生きる上で、必要な努力ではないでしょうか。

それでは、全校生徒の皆さん、長い二学期、お疲れさまでした。これから 17日間の冬休みに入ります。次に皆さんに会うのは1月9日です。元気な皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

本年も大変お世話になりました。しばらくの間、子どもたちを家庭・地域にお返しますが、どうぞよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。